2026 年 8 月 17 日

各　位

会社名　株式会社 Sapeet
代表者名　代表取締役社長　築山　英治
（コード番号：269A　東証グロース）
問合せ先　取締役 経営管理本部長　佐藤　琢治
（TEL. 03-6822-3263）

成果創出を起点に AX を実行する「SAPEET AX SDO」始動
～PoC ありきから脱却し、戦略・業務設計・実装・運用を一体で推進～

株式会社 Sapeet（本社：東京都港区、代表取締役社長：築山 英治、以下「Sapeet」）は、企業が実現したい成果から逆算し、戦略策定、業務設計、実装・運用まで一気通貫で担う AX（AI Transformation）実行組織「SAPEET AX SDO（Strategy,Design,Operation）」を立ち上げます。

SAPEET AX SDO は、PoC（実証開発）の実施自体を出発点とせず、事業や業務において実現すべき成果を起点に、必要な取り組みを設計・実行する少人数の AX 実行チームです。必要に応じて検証を行う一方、技術的・業務的な実現性が見えている場合には本番導入へ進むなど、PoC を必須のプロセスとは位置づけません。SDO の各領域の専門性を一つのチームに集約し、「何を実現するか」の定義から成果創出までを一貫して支援します。



取り組みの背景：PoC ありきから、成果起点の AX へ

PoC は、AI をはじめとする新しい技術やアイディアについて、実現可能性や有効性を小さく検証し、リスクを抑えながら前進するための重要な取り組みです。

一方で、企業からは「PoC を繰り返しているものの、実際の業務や事業成果につながっていない」という声を多く伺っています。その背景の一つに、PoC の前後のプロセスが分断されていることがあります。例えば、戦略はコンサルティング会社が策定し、システムは開発会社が構築し、導入後の運用は顧客企業の現場が担うといったように、フェーズごとに異なる組織が関与するケースは少なくありません。その結果、プロジェクトの目的、業務上の背景、当事者意識などが十分に引き継がれず、システムが完成しても現場で利用されず定着しないといった問題が生じています。

特に、複数の部門や意思決定者、既存システムが関わる企業の AX では、技術的な実現性を確認するだけでは変革を進めることができません。経営課題と現場業務をつなぎ、関係部門の合意形成を図りながら、本番導入後の運用までを見据えて設計することが必要です。

Sapeet において、AX 実行で優先すべきことは、PoC を実施することではなく、企業が求める成果を実現することであると考えています。SAPEET AX SDO では、成果から逆算して戦略策定、業務設計、実装・運用を一体で推進し、企業の課題や状況に応じた現実的なアプローチで AX を実行します。

SAPEET AX SDO とは

SAPEET AX SDO は、戦略（Strategy）、業務設計（Design）、実装・運用（Operation）の専門性を持つメンバーで構成される、少人数の AX 実行チームです。顧客企業が実現したい成果を起点に、経営課題の特定、部門を横断した業務変革、システムの実装、本番導入後の改善までを一貫して支援します。

- **成果創出から逆算するプロジェクト設計**
  PoC の実施を前提とせず、企業が実現したい成果から逆算して、必要な取り組みを設計します。

- **戦略、業務設計、実装運用の専門性を集約した実行体制**
  戦略策定、業務設計、実装運用を少数精鋭のチームが担います。
  フェーズごとの引き継ぎによる情報や背景の欠落を防ぎ「描いて終わり」「作って終わり」にしない、成果創出を起点としたプロジェクト推進を実現します。

- **運用の現実を戦略へフィードバックする循環型のデリバリー**
  運用状況や現場の声、実データを戦略と業務設計へ反映します。
  一方通行ではなく、戦略、業務設計、実装運用を循環させることで、「実現性のない戦略」と「業務に乗らない実装」の両方を構造的に防ぎます。

- **日本企業の部門横断型プロジェクトの推進を強化**
  顧客企業に深く入り込み、各部門の背景や役割を整理し、成果目標と実態に即した実行体制を設計します。
  複数の部門や意思決定者、既存システムが関係する日本企業の AX では、優れた技術を導入するだけでは成果につながりません。各部門の立ち位置を理解し、関係者をつなぎながら、実際に運用できる業務と仕組みをつくることが必要です。SAPEET AX SDO は、関係者の合意形成を支援しながら、部門を横断したプロジェクトを推進します。

- **大企業における本番導入・運用定着まで対応**
  検証環境での開発にとどまらず、既存業務やシステムとの接続、セキュリティやガバナンス、運用体制など、大企業の本番導入に必要となる要件を踏まえて支援します。
  大規模なシステム開発を要する場合には、Sapeet のソリューション開発組織と連携し、別途開発体制を構築することで、SAPEET AX SDO は課題設定と成果創出に継続的に取り組みます。

SAPEET AX SDO の根底にあるのは、成果物を納品して終了するのではなく、顧客企業の現場と実データの中に入り込み、特定の課題を成果が出るまでともに解決するという考え方です。SAPEET AX SDO は、Sapeet がこれまで培ってきた「寄り添い」を、AX の実行体制そのものとして具現化したものです。

提供プラン

SAPEET AX SDO では、対象とする課題の範囲や支援期間に応じて、3 つのプランを提供します。特定の業務課題に集中して取り組みたいケースから、組織単位での変革を進めたいケースまで、企業の状況や目的に合わせてプランを選択いただけます。

プラン	対象	期間
トライアル	特定課題（1 領域）	1 ヶ月
ライト	複数課題（3 領域）	3 ヶ月
ベーシック	組織単位の課題	6 ヶ月

AI ソリューション事業部 プロジェクト統括責任者 今井 大吾より



私はこれまで多くの業務改革やシステム導入の経験をしてきました。そこで最も感じたのは、経営と現場の距離がプロジェクトの成否を大きく左右するということです。経営が目指す姿と、現場で起きていることを近づけられるほど、変革は実行され、仕組みとして定着していきます。この考え方を AX にも取り入れたいと考え続けてきました。

SAPEET AX SDO は、経営と現場をつなぐエキスパートで構成される AX 実行組織です。SDO のメンバーが戦略→設計→実行→FB を素早く繰り返し、AX が実際の運用に乗るまで伴走支援します。Sapeet は、お客様が最短距離で AX を自社のものにしていただける仕組みをお届けしてまいります。

プロフィール

大和総研で IT エンジニア、日本ユニシス（現 BIPROGY）でコンサルタントを経て 2007 年株式会社ミスミ入社。全社 IT 戦略策定と IT 部門責任者を 15 年担当し、年商 3,500 億円規模の基幹システム再構築を PM として 3 度推進。業務改革部門を立ち上げ、グローバル 12,000 名の改革を主導。

2022 年より Sapeet に参画。現在は AX コンサルから IT 開発デリバリー、デリバリーリソース管理、全社・事業・プロダクト戦略立案を担当。

株式会社 Sapeet について

Sapeet は、AI で企業独自のベテラン知見を解析し、競争優位性につながるコア業務の価値を増幅・拡張する Expert AI 事業を運営する東京大学発ベンチャーです。コミュニケーション AI や身体分析 AI を使いやすいシステムとして提供し、企業の AI×人間の協業体制構築を支援します。

会社名	：株式会社 Sapeet
所在地	：東京都港区芝五丁目 13 番 18 号 いちご三田ビル 8 階
代表者	：代表取締役社長 築山 英治
上場市場	：東京証券取引所 グロース（証券コード：269A）
URL	：https://sapeet.com/

当社では IR 情報のメール配信を行っております。適時開示や PR 情報のほか、決算説明会の動画配信等も予定しております。

サービス登録をご希望の方は、下記 URL または QR コードより登録をお願いいたします。

https://sapeet.com/ir/newsletter

当社は、ご関心をお寄せいただいているステークホルダーの皆様への公平な情報開示に、引き続き努めてまいります。